

「いつでも・どこでも」
情報端末の持ち帰りで実現する
教育DXの第一歩

自己紹介

- 福澤則雄
- 2021年4月より喬木第一小学校・校長
- 専門: 音楽
- 趣味は、野球、ピアノ、散歩、唐辛子の粉末、釣り、
チョウ

本日本話する内容

- 喬木村における「情報端末の持ち帰り」を実現するまでの道のり
 - 教育委員会として(環境整備・周知)
 - 学校として(運用)
- 情報端末を持ち帰っての活用
- 情報端末の持ち帰りによる効果
- 新たに赴任してきた身として、実感していること

持ち帰りを実現するまでの歩み コロナ休校に対応できなかった経験

喬木村の歩み

- 「人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業(H27~29)」
- 遠隔合同授業で小規模校の課題解決について効果を実証
- その後も村単独で継続し、計5年間の実践を積み重ねてきた



喬木村なら、コロナ休校中のオンライン授業も
安心でしたね!

実際には…

休校中の対応は思うようにできなかった

- 端末の持ち帰りをしたことがなかった
- 家庭でのインターネット接続への対策がなかった
- 子ども(先生も)一人一人が個々でWEB会議につなぐという経験はなかった
- 「いつでも・どこでも」使う、という発想がなかった

遠隔合同授業の機材や経験



オンライン授業の実施

持ち帰りを実現するまでの歩み 環境整備と周知(教育委員会)

- 家庭の通信環境調査⇒モバイルルーターの貸し出し
- 全家庭へのGIGAスクール構想を説明するための通知
- Q&Aサイトの公開(2020年・7月)
- 情報端末・アカウント利用の同意書の作成
- 持ち帰りの実施スケジュールの通知
- 家庭で安全に使うための対策
- 喬木村 GIGA Informationの開設

喬木村 GIGA Information通信①

2021.4.
喬木村教育委員会
0265-33-2002

GIGA … GIGAスクール構想

文部科学省が推進する、全国の児童生徒1人1台のPC端末と、学校の高速大容量の通信ネットワークを整備する計画のことです。

保護者の皆様のご協力をお願いします



ご家庭に学習用PC端末を持ち帰ります。



ご家庭のインターネット環境へ接続します。



ご家庭で充電してから学校に持っていきます。

～学習用PC端末の破損・故障の際の費用負担について～

基本的には教育委員会で負担します

ただし、わざと引き起こされた破損・故障、過失による紛失などの場合はご家庭の負担による修理や買い直しを求めることがございます。

学習者用PCを家庭でも安心してお使いいただける

4つの対策

①

有害サイトのブロック

- ・ 詐欺・ウイルス感染等、危険なサイト
- ・ 年齢的にふさわしくないサイト

フィルタリングソフトでブロックしています。どのWi-Fiに接続してもフィルタリングがかかるので、家庭でも安全な環境でインターネットを利用できます。また、現状では、小学生は夜9時、中学校は夜10時以降はどのサイトもブロックされるようになっています(検索も不可)。

②

利用履歴の記録

- ・ 学習用端末上で行った操作
- ・ 閲覧したインターネットサイト

システムにより24時間監視され、すべて履歴が残ります。必要に応じて履歴をたどり、何をしてたか、どのようなサイトにアクセスしていたか、を調べることができます。

③

フィルタリングレベルの選択

- ・ レベル1(学校と同じ)～3(指定されたサイトのみ許可)を選択可能

家庭利用時間帯のフィルタリングレベルを選択できます。活用の幅が狭まってしまうので、通常はレベル1(学校と同じ設定)です。段階的な運用を希望される場合に、フィルタリングレベルの変更を申請することができます。

④

アカウント・端末のロック (一時利用停止)

- ・ 端末を紛失してしまった
- ・ 不適切な利用をしている(されている)

保護者の申請によって、子どものアカウント・端末の一時的なロック(使用不可)を行うことができます。

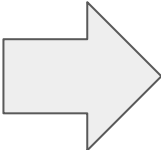
持ち帰りを実現するまでの歩み 学校としての取り組み

- 保護者の体験会
- 段階的な持ち帰りの練習
- Chromebookの使い方を考えよう

夕飯のメニューを
スプレッドシートに
書きこんで見合っ
てみましょう



Chromebook保護者体験会

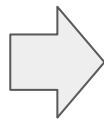
- 
- 保護者の理解を得る
 - 段階的に行い、保護者も教員も慣れていく

持ち帰り練習期間	1週間	持ち帰って充電してくるだけ (インターネット接続なし)
接続テスト期間	2～3週間	限られたインターネット接続
通常運用開始		学校と同じ状態で持ち帰る

持ち帰っての活用

授業の続き、宿題・予習として

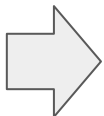
- レポートやプレゼンなど
- 補充・診断型の教材
(インタラクティブスタディ)



- 自分のペースでとことん追究できる
- 即時フィードバックで自分にあった問題に取り組める

学校生活の効率化

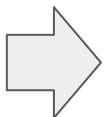
- 児童会の資料作り・打ち合わせ
- 係活動の資料作り



- 教科での活用を日常に活かす
- 学校でなかなか時間がとれずクオリティががらなかった問題を解消

スキル向上・創作・コミュニケーション

- タイピング
- プログラミング
- Classroomのコメント



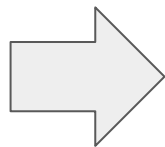
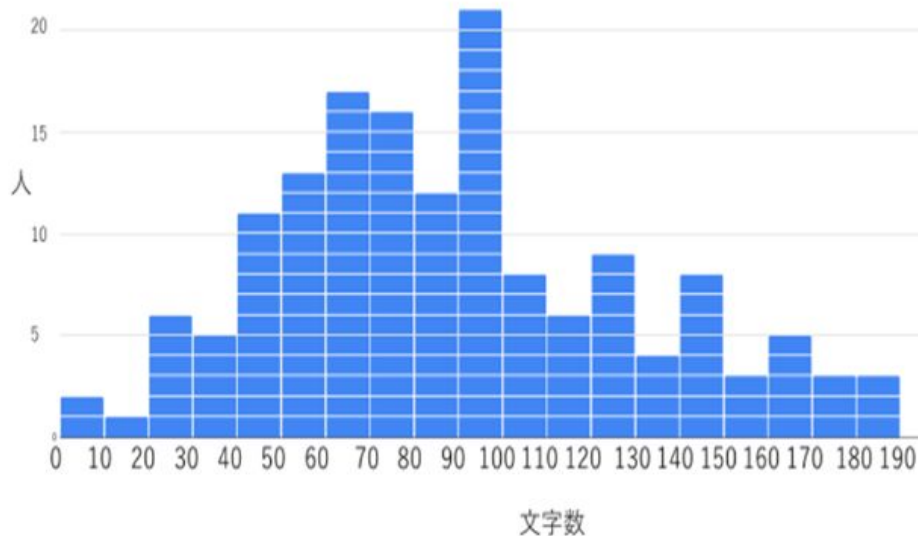
- 圧倒的に利用の頻度・時間があがる
- 基礎的なスキルを 自主的に 習得
(全てが”学び”)

持ち帰りの効果 基礎スキルの向上、学校生活のDXへ

家でのタイピング練習、日常的な利用による操作時間の増加

小学校4～6年生

平均89字／分



- ・基本的な操作説明がいらなくなる(初めてのことでもすぐに理解できる)
- ・やりたい活動にすぐに入れる

持ち帰りの効果 基礎スキルの向上、学校生活のDXへ

児童会活動での活用

- 企画書を何回も紙で書き直し
- 限られた時間の中で企画を練りきれない



- 休み時間や家庭で企画書を同時共同編集で作成
- クラウド上で先生に提出して、先生はいつでもチェック

161-01 [redacted]
14:49
すみません。児童会で使うのであげさせていただきます。
チェックもよろしくおねがいします。

フラワーデザインコンテス...
Google スライド

クラスのコメント 2 件

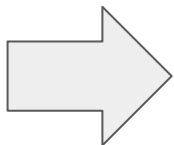
曾根原亮 6月2日
編集権限をください。それにしても、よくできていますね！

曾根原亮 6月2日
「派手なデザイン」 ⇒ 「複雑なデザイン」
「提出期間」 ⇒ 「提出日」
6月18日まで ⇒ 6月18日

ひとまず、これは直しておいて！

つくった企画案を先生に提出
チェックを依頼

先生は空き時間にチェック
コメントを返す



- ・効率化、時間の有効活用
- ・子どもにも先生にも余裕が生まれる

校長として赴任してきて

- ・お昼の校内放送で児童会連絡「クラスルームにあるアンケートに教えてください」
- ・机上にタブレットがビシッと並んで、授業が始まると思っていた...
- ・「〇〇って何ですか？」という単純な質問が減った

事前に頂いた質問

○端末の持ち帰りについて

1. 端末持ち帰りのために保護者に伝えることや、ルール、紛失した場合の対応などについて
 - GIGAスクール構想について、喬木村として目指すところ、家庭利用での安全対策について(フィルタリングや紛失時等の対策など)、村教委から全家庭に通知。
 - 家庭通知はすべて公開されている<https://sites.google.com/vill-takagi.info/gigainformation/>
2. 長期休業中の持ち帰りの際に、端末をどのように活用するかについて(複数)
 - 学習者用デジタル教科書の活用
 - 夏休み中の課題の一環として(総合につながる地域調べで写真をとる、新聞づくりのネタ集め等)
 - 寝た時間と朝起きた時間をスプレッドシートに記録するといった簡単な活用でもいいのでは

○端末の管理について

1. 運用規定をどのように決めているか。どのように明文化しているか。
 - 学校・教委・外部有識者からなる推進委員会がある
 - そこで、端末運用にかかわるガイドラインを作成している
 - すべて公開されている<https://sites.google.com/vill-takagi.info/gigainformation/>

2. 授業中など教師の目を盗んで不適切なサイトを閲覧している。対策はどのようにした良いか
 - 話を聞くときは画面を閉じる、気になるなら背面を向けるなど指導している
 - 隠れて本を読んでいる、お絵かきをしているといったことがあったときに今までどのように対応していたか
 - 情報端末だから、という特別な理由ではないのでは

○研修について

1. 職員の研修を行いたいが、どのように時間を捻出しているか。
 - 積み重ねがある、という前提はあるかもしれないが、全体研修はほとんど行われていない。
 - ICT担当やICT支援員に相談して、OJTで解決していることが多い
2. 日常での活用について、学校差、教員差が出ています。想定していたことですが、大人の心に火をつける手立てはないか悩んでいます。
 - まずは先生が業務の中で活用して便利さを実感することがよいのでは
 - 本校でも、朝の検温をGoogle フォームでとり、結果を教師用のclassroomで共有し効率化を図っている
 - 便利さを自身が実感することで、活用のイメージにつながるのでは
3. 端末の扱いに苦手意識のある先生にどのようなサポートをしているか。
 - ICT支援員によるサポートが大変ありがたい
 - 一方で、昨年から活用できている同僚に気軽に相談できる雰囲気も大事
 - 学年や連学年で相談できる仕組み

○端末の活用について

1. 無理のない普段使いに向けて、具体的な活用例を知りたいです。特に低学年での活用が課題です。
 - 4年生が使い始めのころ、classroomに先生から毎朝質問を投稿して、朝の会までに答えておいて見合う、話題にするといった使い方をしていた
 - 4年生なので記述していたが、低学年なら選択式とか1や2で答えるといった工夫ができるのでは
2. 具体的な授業実践例を教えていただければありがたいです。
 - まとまって紹介できるような形にはできていない
 - 文科省のStuDXスタイルのHPが参考になる(<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>)
 - 喬木のGIGA informationでもブログで実践の様子をあげている
<https://sites.google.com/vill-takagi.info/gigainformation/>
3. 情報モラル・健康面について対策をねっていくことが、活用を進めていく上で大事になってきています。どんな取り組みをしているか共有したい。
 - 推進委員会でチラシや同意書を作成している(公開済み)
 - 各クラスでそれをもとに、話し合いやクラスのルールをきめて運用している

○学童での利用

- 学童に通う子はほぼ全ての家庭学習を学童で終わらせています。持ち帰りが学校全体の取り組みとして難しい面もあり、学童にも現在の持ち帰りの意義等も伝えていくことも難しい状況にあり、どのように考えていったらいいのか情報をいただきたい
 - 喬木村の場合、村内2つの学童(第一小学校区・第二小学校区)
 - 第一小学校区の学童にはWi-Fi設備があるが、フリーではない
 - 第二小学校区の学童にはWi-Fi設備がない
 - 貸し出し用のモバイルルーターを代用するか？
 - 現状は、学童でのWi-Fi接続は行っていない
 - 全ての宿題が端末で行うものに入れ替わっている訳ではないので、現在はChromebookを使う宿題は家でやる」となっている
 - 村の方針で家庭への持ち帰りを行っているので、村の施設としての学童でもchromebookを使えるように調整していく
 - その際には、学童用の「利用の約束」や「同意書」が必要と考えている